

まゆだま

2012. 11. 20 発行
No. 360

二〇一二年 度 十 二 月 号



連絡先：高田（八王子一小）
東京歴教協 八王子支部

～ 素晴らしい秋晴れの午後、八王子台町市民センターに震災の瓦礫が集まりました。今月は、この震災瓦礫を使ってどのような授業をしたのかを学び合いました。～

11月例会報告：「実物で震災の授業を作る」

4年生の3. 11に震災を体験した子ども達。持ち上がりで5年生になったので、比較的早い段階で現地入りした奥田さんが、自分のボランティア体験、現地視察を通じて子ども達に現地の様子を伝えていきました。しかし勤務校では「あまり被災地に触れないように」という雰囲気もあったようです。しかし、子ども達には知ったことを次に伝える事が大切だと話しました。さあ、その授業の展開とはどのような???

＜子ども達＞
給食の献立の変更、計画停電、水の問題、放射能汚染、震災は、ただの事故にとどまらないことを知った。
↓
5年生の都道府県学習で東京と福島を知ることを知る。
↓
産業学習で漁業を学んでいくと。
↓
静岡への移動教室の前に新茶からセシウムが出たという事故報道が！
↓
自分達の生活とのつながりを感じる。



＜私と被災地＞
GW明けに現地へ
↓
自分の学生生活で関係していた所へ
↓
現地から許可を得てモノを入手する
↓
夏休みに1週間のボランティア活動
↓
社会科単元の入替えをする
↓
新聞スピーチの習慣化(情報収集)
↓
半年後ぐらいから本格的な授業作り
↓
道徳授業で教材化

◎授業への準備として

5年生の子ども達には、はじめから震災の授業ではなく、まずは教師自身が何回も現地を訪れ、実際にボランティア活動を通して学んだことを土台にして、子ども達的心情を耕す作業が大切である。 ←これが”奥田流行動派授業準備”なのかも。

◎いろいろな切り口で「震災」と向き合う

- A：河北新報を自分で取り、紹介していく
- B：朝日小学生新聞を学校で取って活用していく
- C：在京新聞社の記者との活用の検討

★新聞を取り扱うことで子ども達に情報の作られ方を自然に学ばせていく

結果：河北新報社に出前授業をしてくれる記者がいた = 「新聞報道の大切さ」(伝えるということ)



【当日の号外はこんなです】

新聞報道の”真実”とは???
T P P ・消費税 ・震災報道

【現地に行った若手】

【初めて見る若手】

◎自分も役に立ちたい

七五三の時期に、南三陸町の神社へ着物&着付けのボランティア教師自身が新聞の記事になることで、子どもへの興味関心をかきたてる

◎体験談を聞く

東北教師区支援派遣教員の一時帰校 4～6年生向けの合同特別授業

◎1年後の3. 11 (4紙合同プロジェクト)

グループ毎の新聞作り→河北新報社へお届けした

◎今年度の取り組み

- ・3年生の子ども達の担任として
- ・1年生の時期の体験→その後はよく知らない→知らされていない
- ・学年の特性を活かしながら、何らかの形で「こわい」、「知りたくない」ということにとどまらず、「知りたい」、「伝えたい」という気持ちになるように、

教師側が考えて向き合う事が大切 → 教師の社会認識の度合い・思い

情報の授業をうまくからめて、震災学習という形でまとめられる

【報告後の感想、意見交換会】🍵🍵🍵🍵🍵

- 5年生には、情報の切り口でこんな授業ができると知って素晴らしいと思った
- 3年生にはどうなのか？「こわい、いやだ」にならないのか？むずかしいと思う。
- 現地に行ったことがない先生には、これは可能な授業なのかなあと思う。
- 自分は現地に行ったけど、それをそのまま授業にはつかえないかなと感じる。
- 先生の思いがやっぱり一番でしょうね。自身が現地に行って見た事実なんだから、それが子どもにひしひしと伝わるんだろうね。
- 新聞や現物、写真などの資料の用意というのも、それを用意する先生の思いが入ると余計にしっかりとした教材になるんだろうなと感じています。
- 震災の事実を伝えることも確かに必要だけど・・・???
- ”津波てんでんこ”のような、被災した時に知恵と工夫でどう乗り越えたかという体験を伝えていくことで、命の大切さ、人のつながり、防災教育へとつながっていくのではないかな。東京でもどこでもそれは”どう生きるか”という普遍的な学びになっていくのではないかと思います。そこまで高めるのは難しいけれど。
- ”判断する力”をどう高めていくかが、今の子ども達に一番必要なのだと思うのです。情報の取捨選択、その時の自分の行動様式は、最終的に自分自身が決定するのが大切だということをこの学習を通してつかませていくことが大事な。
- 「被災地には観光でも行った方がいい」と聞いたので、ぜひぶらっといこうと思う。
- こういう授業は、「戦争と平和の学習」と少し似ているような部分もあるかと感じた。震災は人間の努力で防げるものではないけれど、戦争の悲惨さと同様に震災の被害は忘れられていくという意味では同じだと思う。やはり教員生活を続けていくのであれば、自分なりの伝えかたや学び方を持つ必要があるだろうと思います。
- 防災教育、自然理解教育というような教育と、実際にどう生きてきたかという歴史教育とは少し性格が違おうし、教えることができると思う。地震学者達の注意喚起と防災教育のような政策的教育のズレは、今後どのように学んでいくべきか。
- 予測や予報の問題も日本で生きていく上では知ることが必要だとは思う。歴教協の理念と同じように、科学的に考えていくことも必要ではないかと思いました。
- 「津波」と「原発事故」は根本の性質が違うことも同時に教えて行く必要がある。
- この学びを通して、”自分から何かを変える、変わる”という変化がほしい。
- 直接体験者の話を本人にしてもらうのはいいかもしれないけど、自分が知らないことをただ人に頼むのではなく、教師自身が学びながら間接的な体験者になり、受け継ぎ、”語り継ぐ”ということを考えていかないといけないと危惧している。

報告を終えて：報告者の感想・思いなど

ほとんど私の思いで、勢いでやってきた実践ですが、多少なりとも教材研究の参考になれば幸いです。単元に無いモノを同実際の単元と矛盾無く組み合わせ、教育目標の達成に近付けつなげていくか課題は多いと思いますが、社会科だからこそ時事と共に移り変わる生きた教材として追求するに値する面白さがあると思います。

参加者の感想から



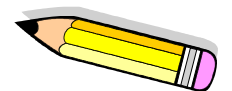
- ◆自分の問題意識を持つと現地にとんで、視察しボランティアで働き、地域の人と共に過ごし、話を聞き、津波で被災したモノや流れ着いた品物、現物を収集し、写真を撮り、新聞社に出向いて資料をもらい、その中で新聞を有効に授業に生かし、とにかく自分の足で歩き、精力的に取り組みされた実践でした。被災地の生活の問題や、地震防災に生かせる迫力ある実践でした。有り難うございました。お疲れ様でした。

- ◆今日はありがとうございました。先生のお話を聞いて、震災直後の子ども達の様子をいうことでどこか話題にはいけない雰囲気ははじめにあって、もしそのまま震災を学校で触れることがあまりないとどうなっていくのだろう・・・と感じました。学校で学ぶことが無ければ、TVや新聞などメディアからの情報のみが入ってくると思います。でも、「河北新報」に出会ってその子ども達は「本当に良いのか？」という視点を持つことができたのが素晴らしいと思いました。今年の私は、まだ目の前の3年生に伝えることができていないのですが、この震災のことを伝えることを絶対にしていきたいと思っています。むしろ伝えなければいけないと感じました。
- ◆現地取材のリアルな資料から強烈な印象を受けました。現地の方の生の声も聞く人の心を強くゆさぶる力を持っています。子ども達を授業に引き込むために並々ならぬ努力をしているみやま先生に敬意を表します。今回の実践報告は、教育として扱う場合に自然災害教育や歴史教育、防災教育と様々な分野にまたがっていると思います。これらをどう整理して考えるか、今後八王子支部としても検討していく必要があると思います。
- ◆今回、奥田先生が実際に行った授業の内容を知ることができて、大変勉強になりました。日頃から先生の行動力には驚くばかりですが、あらためて、子どもの心を動かすには、まず教師が動く必要があることを強く感じました。以前私も3年生につながるのえほんを読み聞かせしたことがありましたが、自分の知識や思いが足りなかったように思います。今日の学びを踏まえて、今後、膨大な情報の中か有益な情報を選択して、自分の中でテーマを持って子ども達に授業をしようと思います。
- ◆3.11の大震災を、5年生の教材として扱うのに「情報」という切り口からされているのにはさすがと思いました。子ども達が真剣に自分の課題として授業に取り組んでいる姿に感動しました。
- ◆東北大震災は、今後しばらくはいろいろなところで教材化し、子ども達に伝えていかなければと思います。現地の新聞社とコネを作り、また個人としても頻繁に被災地へボランティアとして活動している奥田先生ならではのエネルギーな報告でした。社会の情報としてはもちろんですが、道徳・理科と様々な教科での授業が考えられます。「語り継ぐ戦争体験」のように「語り継ぐ大震災」をこれからもいろいろなところで展開していくべきと思いました。地震国日本に住んでいる私達は、被災地に共感する気持ちを持たないといけないのですから。明日は我が身として。
- ◆モノに語らせるという授業は、まさに風化する戦争学習と同じだと思います。実際に体験しなくても、”想像力”で共感する授業を目指すことが大切だと感じました。これからもこのような授業が増えていくことを心から願っています。

—12月例会のご案内—



【2012年 12月例会】



報告者：齋藤 華苗子さん（杉並区立小学校教諭）
 日時：2012年12月1日（土）14：00～16：30頃
 場所：子安市民センター（JR八王子駅南口徒歩10分）
 内容：小学校6年生の授業実践報告です。社会科、憲法学習など。
 （八王子例会での学んだことを実際に授業に活かして）

※例会の詳細につきましては、事務局の高田さん（2012年度からの勤務先＝八王子第一小学校：042-642-0851）までお願い致します。